

平成 8 年 度

全日本リレーOL大会

愛 知 県 選 手 団 活 動 報 告

この報告書は、平成8年度の全日本リレーOL大会（広島）への愛知県選手団派遣のための活動の概要をまとめ、反省点を次年度以降へ反映するために作成したものである。

作成 1997年3月10日  
選手団監督 新帯  
(つるまいOLC)

## 目 次

1. 活動の概要と次年度への提言

2. 選手団アンケート集計結果

3. 活動の経緯

(1) 活動日程

(2) 派遣までの手順決定

(3) 選手募集とセレクション

(4) 監督、団長の選出

(5) 広報活動

(6) 宿泊・交通

(7) 援助活動

### 参考資料

資料1：全日本リレー選手選考手順（素案）

資料2：全日本リレー大会愛知県選手団団員募集

資料3：広報1号

資料4：広報2号

資料5：壮行会選手紹介

資料6：広報3号

資料7：反省会案内&アンケート用紙

## 1. 活動の概要と次年度への提言

全日本リレーOL大会は第5回を迎え、ジュニアからシニアクラスまでの幅広い選手団でなければ上位入賞ができず、各都道府県のOLの実力が試される場になりつつある。他府県では、選手団の派遣を組織的に行い体制を強化しつつある。

愛知県も平成8年度は、選手団強化をねらいOL協会の理事(各クラブ代表)が直接活動を行うこととした。また広報の発行による機運盛り上げなど、各種活動を行ってきた。(詳細は後述)

結果は総合7位であった。これは地元愛知で開催された第2回大会と同順位で、遠隔地(広島)での開催という点を考慮すれば、活動の成果があったと思われる。

### 第5回 全日本リレーOL大会 愛知県選手団成績

ME: ①東京②宮城③静岡④愛知⑤埼玉⑥神奈川

WE: ①東京②埼玉③神奈④茨城⑤千葉...ウム愛知

MSE: ①東京②千葉③神奈④大阪⑤愛知⑥三重

WSE: ①千葉②愛知③神奈④埼玉

MJE: ①東京②京都③兵庫④神奈...⑨愛知

M21: ①千葉...④愛知の風...⑨愛知の光

M35: ①東京②愛知の星 MIX: ...3 走棄権: 愛知の望

総合: 1 東京 2 神奈 3 千葉 4 埼玉 5 京都 6 茨城 7 愛知

(36点)(26点)(25点)(23点)(19点)(17点)(16点)

しかし、後述するように反省点もあり、これらを踏まえ「次年度への提言」を以下にまとめる。今後の協会の事業計画等への反映を要望する。

### 「次年度への提言」

#### (1) 選手団派遣のための予算的援助

- ①選手権クラス補欠の一般クラス参加へのエントリ料
- ②エントリ料以外の宿泊・交通費の援助(特にジュニア)

#### (2) 県内外オリエンティアの把握体制の強化

- ①各クラブ名簿、大会成績の集約、保管。
- ②県外オリエンティアの調査・連絡網の確立

#### (3) 学生オリエンティアへの全日本リレーの広報活動強化

## 2. アンケート集計結果

ここでは、大会終了後、選手団に行ったアンケートおよび96/12/29に行われた反省会での意見をまとめる。なお、アンケートは郵送方式で行い回収率は86%、反省会の出席率は38%である。

### 質問1：選手選考方法について



- ・ローカルな大会でやる方がベター。全国的な大会では出たいクラスに出られなくなっちゃう。
- ・学生はレースでない方法も検討必要。
- ・県民大会を利用してはどうでしょうか？
- ・方法自体はよいが、選考レースが土曜なのは問題。
- ・2～3回で選考がよりベター。
- ・選考時期と場所に一考を。

### 質問2：選手募集方法について

今年の方法でよい。(48%)



(注)「学生へのアピール強化」の回答の内約1/3の方が「県外へのアピール強化」とも回答。

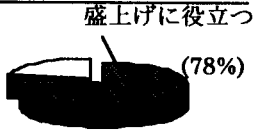
- ・学生が出身県から出場できるのはなぜかを考えればただのアピールでは足りない。彼らを走らせる意味は人不足の解消だけではないであろう。広報だけではなかなか集まらないですね。
- ・PRは早めに行う。
- ・県内の学生にもっとアピールすべき。
- ・様々なネットワークを通じて県内出身者の発掘すべき。

### 質問3：広報(3回発行)について(複数回答)



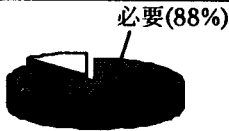
- ・今までは何も聞かされないまま大会会場へ、ということだったそうです。今回は情報が入ってよかった。
- ・チームの選手間の連絡もこれくらいしたかった。

質問4：壮行会について (壮行会不参加はカウントから除外)



- ・壮行会ミニ大会を開いたら良いと思う。
- ・壮行会を兼ねたミニ大会を開催すると良いと思う。寄付も集まり易いし、もっと盛り上がる。
- ・合宿したかったですね。より結束できるし、顔合わせた打ち合わせもできる。

質問5：選手宿舎、前夜祭について



- ・たいへんありがたかったです。
- ・大変助かりました。
- ・来年の静岡は近いので不要。代わりに練習会 or 合宿を開いてチーム意識を高めるべき。
- ・近県でも宿舎を利用したいです。

質問6：援助について

学生回答者 (6名)

援助なければ不参加  
(33%)



一般回答者 (19名)

援助は選手団結成に必要  
(73%)



- ・有り難うございました。(学生)
- ・もらいすぎという気がした。(学生)
- ・もっと広い範囲で寄付をつのった方がよい。1口500円くらいにして。例えば近隣大会会場で呼び掛ける。寄付の事を知らない人も多いのではないのでしょうか。
- ・援助は必要だと思う。特に今回はかなりの額を援助したと思う。しかし、もう少し学生と社会人のコミュニケーション(例えばこの人はどんな人で、どんなOLをするのかなど)がないと、社会人から見ると誰に対して寄付しているのかよくわからずに援助している感じを受けるのではないだろうか。
- ・援助金は1年だけの計画ではなく継続できるようにしてほしい。
- ・多くの方が援助して下さって感激しました。ごく一部の県以外では考えられないくらいです。

### 3. 活動の経緯

#### (1) 活動日程

以下に活動の大まかな日程を示す。詳細については、添付資料等を参照。

- 3月 平成6年度第2回理事会後の各クラブ代表理事打ち合わせにて、全日本リレーへの選手派遣体制をより強化する必要があることが提言される。推進担当として新帯（つるまいOLC理事）が決まる。
- 4月 選手派遣の手順について各クラブ理事にアンケート実施。(資料1)
- 5月 平成7年度第1回理事会後の各クラブ代表理事打ち合わせにて、アンケート結果、及び理事の意見より、派遣までの手順を決定。選手団団員募集要項を各クラブへ配布。(資料2)
- 7月 1次選手募集締め切り。  
第1回広報発行。セレクションの案内など。(資料3)
- 8月 セレクション実施。(長野OL大会)ME、MSEメンバー決定。
- 9月 第2回広報発行。セレクション結果など。(資料4)  
他の選手権クラス、一般クラスの2次募集活動。
- 10月 最終メンバ決定。エントリー手続き完了。  
壮行会実施(東海クラブカップリレー大会会場にて) (資料5)
- 11月 第3回広報発行。選手団宿舎の案内など。(資料6)  
大会当日(全日本リレーOL大会、広島)
- 12月 反省会。および選手団アンケート実施。(資料7)

以下、各内容別に、概要を述べる。

## (2) 派遣までの手順決定

派遣の基本的考え方、エントリの手順などの素案(資料1)を各クラブ代表に配布し意見を集約した。素案は過去の経緯などを考慮し、以下の考え方により新帯が作成した。

### ①フルエントリをめざす。

県の総合力が試される場であるので、ジュニアからシニアまで幅広い選手で望む。

### ②参加できないクラスは早めに見切りをつけ、予算を有効に使う。

エントリ料は県協会予算であり無駄は許されない。あやふやなチームでエントリするより、参加者を明確に確定して望む。また、補欠も確保し、未出場あるいは失格を確実に防ぐ。

### ③選手選考作業を県協会の活動として行う。

県を挙げての派遣であることを明示する意味でも、協会が活動の中心である形態で行う。基本的には理事が活動し、事務局が作業を行う。

(過去、ともすると一部エリート選手だけの活動になりがちのため)

### ④選手団として楽しく参加

県協会の事業であるかぎり、県OLの発展に寄与しなければならない。各クラブ、年齢層がこぞって参加する大会は全日本リレー以外なく、親睦を深める絶好のチャンスである。広報発行や選手団宿舍用意など、選手団としてまとめ、機運が盛り上がるよう活動する。

### ⑤セレクション方法

本人希望、クラブ推薦、セレクションレース結果、大会実績より選考委員が決定。セレクションは長野大会個人戦(土曜日)を利用する。

クラブ員以外でも有力選手は選考対象とする。

各クラブからの意見では、①～④についてはほぼ賛同を得た。しかし、⑤については以下の意見が出された。

- ・過去、基本的に加盟クラブ員であることを選手の条件にしてきた。(学生は除く)ただし、実体はそうでない場合もあった。
- ・選考委員会による選手決定は不公平が出やすくすっきりしない。セレクションのみによる決定が望ましい。
- ・しかし、有力選手がセレクションに出れない可能性もあり、救済の道は残しておいてほしい。
- ・県外からの参加では、セレクションに出れない場合もある。

- ・ME、MSE は参加希望が多くセレクションになるが、他のクラスは参加者が集まらないのが常である。
- ・セレクションは複数回行いたい。
- ・セレクションはなるべく近く、かつ休日に実施してほしい。

これら意見を元に平成7年第1回理事会（5月）の後のクラブ代表の打ち合わせにおいてエントリー手順について話し合い以下のように決定した。

- ・県協会からエントリー料が抛出されることを考慮すると、応募資格は加盟クラブにしていくことが大切。（クラブ員の増加の機会にもなる）
- ・全日本は毎年開催されるので、1回のセレクションで決定すればよい。（今年だめなら、来年挑戦できるので、事実上複数回の機会がある。）
- ・有力選手救済法として、監督推薦制度を設ける。ただし、推薦の希望は本人の申し出による。また、他選手の異議があった場合は推薦しない。（だれもが認める選手のみが推薦の対象となる）
- ・今回は時間的制約から、独自のセレクションを行う余裕がなく、各クラブに公平なセレクションを行うには、時期的に長野大会しかない。
- ・募集は1次、2次に分け、1次は主にセレクションの対象となる希望者が多数のクラス、2次募集は希望者の少ないクラスを中心に事務局側から積極的に参加者を集める活動をする。

以上の考え方に沿って選手団団員募集要項（資料2）を作成し、各クラブに配布。具体的な活動を開始した。

### (3) 選手募集とセレクション

ここでは、1次募集において、定員を上回ったME、MSEクラスと、定員に満たなかったその他のクラスに分けて述べる。

#### ①ME、MSEクラス

1次募集で定員を上回った。特に今回は、積極的に参加したクラブもあったようだ。この2クラスについては、長野OL大会にてセレクションを行った。長野OL大会の主催者の好意により愛知県のセレクションのための特別コースを用意していただいた。

セレクションの結果にもとづき出場選手、補欠選手を決定した。

MEクラスで2名、監督推薦の申し込みがあった。いずれも県内者であ



るが、セレクション当日用事があって出られないとの理由であった。監督（新帯）が以下の基準で推薦するかどうかを検討した結果、2名とも推薦しないことを決定。広報にて参加者に知らせた。

- ・セレクションレースで2位以内に入る可能性が高いこと。
- ・全日本リレーでタイムが12位以内に入る可能性が高いこと。

これらは、確実に愛知県の得点源となるかどうかの基準として考えたものである。

今回は、時期的、運営能力的な制限から、比較的遠方で土曜日の大会でセレクションを行わざる得なかった。しかし、アンケートの結果からもセレクションは近くで休日が望ましいとの意見が多く、来年度以降考慮すべきである。各クラブへの公平度を考えると、近接県（三重、岐阜、静岡）での大会を利用するのが望ましい。また、複数大会によるポイント制も導入検討の価値があると思われる。これは、単にセレクション当日に参加できない者への配慮のみでなく、全日本リレーへの機運盛り上げにも役立つのではないと思われる。

## ②その他のクラス

その他のクラスは定員に満たなかった。特に、ジュニアクラスは1次募集では応募0名という寂しい状態であった。

2次募集では、ジュニアクラスを中心に事務局側から積極的に勧誘する活動を行った。各大学クラブ、加盟クラブのご家族から、参加してくれそうな選手をリストアップし、各クラブ代表者から勧誘してもらった。さらに、個人別に事務局から電話で参加を勧誘した。

しかし、ジュニアクラスでは、全日本リレー大会の存在自体を知らない人がほとんどであり、突然の電話の勧誘では限界を感じた。

今回は、広島という遠方での開催であることもあって、はじめはなかなか参加してくれなかった。それでもエントリー料と宿泊費と交通費を援助すると言うと参加してもよいという人も現れ、何とかMJEクラスはエントリーできた。WJEクラスは3名を集めることができず、断念した。ジュニア女子の場合、クラブ単位で参加することがほとんどであり、全日本リレーのように、大学3、4年生の参加が少ない大会へ、自分たちだけ参加するということはありません。

なお、MJE、WJEには県外からそれぞれ1名ずつ参加申し込みがあった。この2名は愛知県出身の筑波大学生で、是非参加したいとの申し込みであった。県内からは、そのような申し込みはなく、県内のジュニアクラスへの全日本リレー大会および県協会の活動のPR不足を感じた。同時に加盟クラブ員であってもOL大会に積極的に参加しようという意気込みのある人、雰囲気が少ないのではないかと強く懸念された。ジュニアは今後の愛知県のOLを支えていく層であるだけに、このような状況は、今後のOL発展に悪影響を及ぼすのではないかと懸念される。

来年度以降、たとえば以下のような活動によりジュニア層への積極的なPR活動が必要と思われる。

- ・大学クラブ等へ直接出向き、全日本リレーのビデオ(TV放映)を見せる。
- ・大学クラブごと全日本リレーへ参加するよう工夫する。
- ・セレクションを学生の参加の多い大会で行い、PRする。
- ・県外大学クラブへ依頼し、対象者に個別に勧誘する。

なお、WE、WSEも1次募集の段階では欠員があったが、個別に参加を勧誘した結果、チームを編成することができた。

ただ、各クラブ名簿が一括して保管されているわけでもなく、どこにどんな有力選手がいるかは、個人の記憶に頼るしかない状態であった。県協会として、名簿の保管、大会成績の保管を行う必要性を感じた。

#### (4) 監督、団長の選任

監督は、監督推薦を行うため、参加者に明白な方法で選出する必要がある。今回は、参加者に推薦者を出してもらい、その中から1名事務局にて選出し、再び参加者に信任を問うという形にした。

推薦者は3名あったが、内セレクション参加予定者2名は、監督推薦の際に不公平になると思われるため、残る1名(新帯)を監督とした。参加者からも異議はなく、決定した。

団長は、一般クラス参加者の中から選出した。この際、クラブ代表、あるいは理事の経験者を優先した。その結果、本人の意向も確認した上で、つるまいOLC会長の松橋氏に決定した。

## (5) 広報活動

選手への情報提供のほか、選手団としての機運盛り上げのため、広報を3回発行し、各選手宛に郵送した。特に、各選手には自己紹介や抱負を書いてもらい、そのまま広報に載せた。

アンケート結果からは、情報源としては役だったが、機運盛り上げの役目はまだ足りないと思われる。今回は選手のみに配布したが、各クラブ機関誌などへの掲載も考慮すべきである。

また、東海クラブカップリレー（10月）の場を借りて壮行会を行った。大会会場ということもあって、選手以外の一般者も多く参加いただいた。アンケート結果からも盛り上げに役立ったとの意見が多く、今後も継続すべきである。

## (6) 宿泊・交通

今回は広島という遠方であること、選手団としてまとまりを作ることを目的に、選手宿舎を用意した。また、前夜、選手宿舎にて前夜祭も開催できた。アンケートからも宿舎は必要との意見が多く、選手団のまとまりに役だったと思う。今後なるべく宿舎を準備するとよい。

また、当初、ジュニアの交通確保のため広島までのチャーターバスを計画したが、希望者が少ないことと、乗車時間が長すぎることから、中止した。ジュニアへの交通費は、別途選手団あるいは加盟クラブ員の援助を仰いだ。

## (7) 参加費援助

今回より選手権クラスのエントリ料は協会予算より出費される。しかし、交通費などは個人負担となる。（3）選手募集でも述べたが、ジュニア層の不参加原因の一つは宿泊・交通費がかかりすぎるという点である。そこで、選手相互での援助、加盟クラブへの援助依頼を行った。

その結果、総額約17万円の援助が集まり、ジュニア選手の片道交通費、宿泊費として援助した。援助額の内訳は以下の通りである。

2000円：個人16名　4000～6000円：個人4名

8000～1万円：個人3名、団体1　1万円以上：個人1名、団体1

アンケートの結果でも、援助は選手団結成に必要との意見が多く、またジュニア選手側からは、大変ありがたかった、あるいは援助がなければ参加しなかったという意見が多数であった。

ただし、援助の依頼の際に、どんな人に援助するかが見えないという意見もあり、選手団の一般への広報がもっと必要である。

さらに、一度に援助を集めるのではなく、定常的に援助金をプールしていくなど、今年限りでない援助方法を検討していく必要がある。

また、今回はジュニアのみの援助であったが、選手権クラスの補欠者のための協会予算にはない。補欠選手がそろっていないと、異常時にチームとして失格となってしまう。全く競技には参加しないが、補欠として大会会場まで来ていただくわけにもいかない。補欠選手は一般クラスへ出場するが、その際のエントリー料は個人負担となってしまう。来年度以降、補欠選手にも正選手同等の予算が必要である。

(以下余白)